総会速報発行委員会 発行
kyodan-sokai sokuho

第39回
日本基督教団総会
2014年10月28日(火)～30日(木)

速報

No.3
2014.10.29　18:00

雲然俊美書記再選

書記選挙は慣例に従い、議長・副議長により、雲然俊美現書記が推薦され、議場は承認した。

「教団書記の務めは、総会・常議員会会議を議長のもとで整えることである。教団会議は、教会の会議であり、御心を求める祈りがなされ、キリストのご支配が貫かれることが求められる。二期四年の間で、教団が多くの働きと諸教会の祈り、海外の教会の祈りに支えられていることを教えられた。また、いわゆる地方・小規模教会に仕える者としての思いを教団全体に届けたい。地方は地方なりに明るく伝道していることを教団全体で分かち合いたい」と雲然書記は挨拶した。

雲然書記と働きのために朝岡瑞子議員が祈りをささげた。

「教区活動連帯金」「伝道資金」関連議案を審議

法定議案直後の議案29、30「教区活動連帯金を廃止する件」「伝道資金規則制定に関する件」に関連する議案として議案47『教区活動連帯金を廃止する件』と『伝道資金規則制定に関する件』の審議に関する件」、議案33「教区活動連帯金を推進する件」が先議された。

議案47は、議案29、30を統合して議論することを求める議案であり、議案33は議案29の対抗的な意味合いのある議案である。議案47、33共に、議場から反対と賛成の意見を聞き、最後に採決をするという形で議論が進められた。

議案47の議論における主な賛成意見は次の通りである。29、30を別で審議した場合、連帯金の廃止が可決し、伝道資金が成立しないということが起きる可能性がある。そうなると、支え合いの互助制度そのものが崩壊してしまう。11の教区で伝道資金制度に問題を感じているという声が上がっている。両議案を切り離して議論するということを示されたのがごく最近のことで、それまではそんなことは想定していなかった、等である。

一方反対意見は次の通りである。両議案は明らかに性格の違う議案であり、統合して議論するのはふさわしくない。この議案は議案整理を求める議案であり、内容を審議する議案としてはふさわしくない。この議案は統合審議を求めているのではなく、伝道資金に反対する議案だと思われる、等であった。

採決の結果、370中賛成171で議案47は少数否決となった。

議案33の議論における主な賛成意見としては、これまでこの教区活動連帯金で豊かに支えられてきた。教区間格差を小さくするためには必要な制度である。新たに設けられる教区活動連帯金規則において、教団内での連帯金の位置づけを明確にできる、等が出された。

反対意見として、教区活動連帯金制度は信頼関係を破壊した制度である。推進するという抽象的な表現ではなく具体的に何をするのかが明確ではないので議案として成り立っていない。教憲・教規と信仰告白における一致こそ信頼関係の土台であるが、それがなされていないところで連帯が成り立つはずはない、等が聞かれた。

無記名投票によって採決がされ、投票総数375中賛成166、反対208で少数否決された。

「教区活動連帯金」廃止を可決

先議された関連議案33、47が否決された後、議案29「教区活動連帯金を廃止する件」が上程され議論された。書記による議案説明の後、質疑応答、賛成反対の意見表明、採決という流れで議論は進んだ。

質疑応答では、「2009年度教区活動連帯金配分協議会が総幹事に委託した事項を逸脱しているのではないか」という問いに対し、伊藤瑞男委員長から「協議会は総幹事に対し、廃止を含めた連帯金の根本的な改善について委託した」という答えがあり「当初のアンケート調査で12の教区が連帯金は必要だと答えたにもかかわらず廃止なのか」との問いに対し「アンケートから時間が経過しているし、声があっても廃止せざるを得ないこともある」との答えがなされた。

続く賛成反対の意見のやり取りにおいて廃止に賛成の意見として「連帯金の具体的な運用や会計の公式な場での報告がない」「正式な位置づけが無いのに廃止というのも問題だと感じるが、けじめをつけて新しい方向へ向かいたい」「連帯が自明のことでなくなっており、真の連帯を実現させるためにも新制度へ移行したい」等が聞かれた。

反対意見としては「連帯金が廃止されると多くの教会が廃止せざるを得なくなる」「9月16、17日に行われた教区財務委員長会議においても3分の2の教区が反対だった」「連帯金は小規模教会にとって大きな恵み。連帯が崩れているならそれを取り戻して連帯金の存続をすべき」等が聞かれた。

採決の結果、366名中197名の賛成で議案は可決した。

教会中高生・青年大会 2014 報告

「イエス・キリストの名によって立ち上がり歩きなさい」とのテーマで、8 月 19 日～ 21 日、東山荘で行われた「教会中高生・青年大会 2014」について、増田将平実行委員長が報告した。また、山元克之東北教区センター主事が DVD によって様子を伝えた。

増田委員長は、この大会が、第 32 回教団総会の青年伝道決議の具体化であり、伝道委員会、教育委員会、伝道推進室が共催したこと、予算は、伝道・教育委員会から 30 万円ずつの支援があった他、目標 680 万円の献金を募って行われたことを述べた。

会の内容について、「講師は、青年：芳賀力東京神学大学学長、高校生：深井智朗金城学院大学教授、中学生：塩谷直也青山学院大学教授が担当し、全体で行うプログラムもあるが、基本的には、中学、高校、青年とプログラムを変えた」こと、「特に分団を大切にした」こと等を報告。また、スタッフ含め 370 名が集まり、全教区 153 教会からの参加があった他、台湾、韓国、アメリカ、ドイツ等からの参加があったと述べた。

更に、参加者の声を紹介した他、大会を通して、「洗礼を受けたい」、「伝道者となる決意を与えられた」と言う人がいたことに触れ、教団で大会を行う意義について、「青年たちが参加した仲間を通して、教団の各地の教会を知り、お互いに祈ることができたらどんなに良いかと思う」と語った。

今後の幻について、「参加者、スタッフの層が広げられ、内容が深められて行くことが必要。各教区の活動と連動することによって、教団全体の青年伝道が進むことを願っている」とした。

終わりに、大会を覚えての祈りと献金に対する感謝を述べた。

東日本大震災報告

雲然俊美書記より「東日本大震災救援募金の状況、収入の内訳、国内募金、海外募金、支出の内訳などについて」説明があり、引き続き、プロジェクターにより被災 3 教区の現状報告がなされた。

奥羽教区・邑原宗男議長より「一関、江刺、新生釜石、千厩、大船渡の各教会の会堂・牧師館、幼稚園、保育園の建築状況、宮古は工事全般で苦慮していること」等が報告された。

東北教区・小西望議長より「いずみ愛泉、安積、角田、岩沼、郡山、郡山細沼、三春、磐城、常磐、仙台ホサナ、仙台長町、川俣、鹿島栄光、中村、白石、福島新町、名取、勿来、仙台広瀬河畔、福島の各被災教会のうち 17 教会が会堂・牧師館の補修、建築完了。小規模教会が、疲れ、ダメージをもってこれから返済に向かうのが課題。また放射能汚染で立ち入りが制限されている浪江、小高の各伝道所の状況や甲状腺の検査を毎月行っている東北教区放射能問題支援対策室『いずみ』の報告」等がなされた。

関東教区・秋山徹議長より「建物被害が中心であり、桐生東部、原市、甘楽、益子、水戸自由ヶ丘、伊勢崎、宇都宮、水戸中央の各教会の会堂の補修、会堂建築完了。宇都宮上町はこれから新しい場所に会堂建築」等の報告がなされた。

その後、飯島信幹事より「東北教区センター、エマオ仙台、エマオ石巻、ハートフル釜石、こひつじキャンプ」等の報告がなされた。

以上の報告を受けて、石橋秀雄議長より「あの震災のとき、どうすればよいか途方にくれたが、祈りと献金に支えられ、被災者支援、教会・牧師館復興ができたことを感謝する。ボランティアの青年たちの中で、悲しみから生き方を変えられた者があり、また教会から献身者が起こされた。仮設住宅から未だ出られない方々の大きな悲しみに祈りを深めている。放射能汚染のため、『いずみ』への支援を覚えてほしい。会堂建築、大規模補修が進められているが、返済の重荷をどのように軽減していくかが課題である。9 億 5 百万円の献金がささげられているが、目標額 10 億円まで、なお献金を」との呼びかけがあった。

最後に、伊藤瑞男副議長より、執り成しの祈りがささげられた。